

広島大学学術情報リポジトリ
Hiroshima University Institutional Repository

Title	対話の中で意識の流れをたしかめる
Author(s)	市山, 仁美
Citation	児童の言語生態研究 , 10 : 47 - 53
Issue Date	1980-05-31
DOI	
Self DOI	
URL	https://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/00045117
Right	
Relation	



対話の中で意識の流れをたしかめる

市山仁美

1. 授業案

一、日時 昭和五十四年一月二十日

午前十時五十分～十一時四十分

二、児童 横浜市立大正小学校六年四組

男子二十五名、女子十八名、計四十三名

三、領域 音声言語

四、テーマ 子どもにとっての音声言語を探る。

授業テーマ

対話の中で意識の流れをたしかめる。

五、授業テーマ設定の理由

本来言語というものは、独立して存在するものではなく人間の理解行為、表現行為そのものであると考えられる。言葉を操る人間そのものと言うことができよう。そこには

人間の感覚、感情、思考、構え等さまざまな要素が組み込まれている。従って人間の言語習得は、それらさまざまな要素の発達と相まって進むべきものと考えらるべきである。その人間の感覚、感情、思考、構え等の発達を示唆してくれる大いなるものは、音声としての言語であろう。

大人は人の話しぶり声色、リズム、抑揚を聞いて話し手の気分を知ることができる。電話など相手の顔が見えない場合には、気分から表情をもつかむことが出来る。又、何を考え、何を求めているかという相手の意識と意志もつかむことができる。

ことは、一人で使うものではなく、話し手は、相手を意識した上で、自分の意識や意志を話しぶり、声色、リズム、抑揚にのせて伝えようとし、聞き手は、話しぶり、声色、リズム、抑揚を手がかりにして、その意識や意志を判

断する。これが、ことは本来の目的であり、対話のはじまりであると考える。これ等は、まさに音声言語と人間の切っても切れない関係を示すものと考えられるのではなからうか。

六、本時の目標

テープでとった対話を聞いたり、プリントを見て、対話には意識の流れのあることを知り、その流れには、方向があり、緩急(リズム)があり、停滞があり、飛躍、転換、合流、停止などさまざまな変化のあることを確かめる。

七、授業の展開

学習活動	留意点
発問 きょうは木曜日のテープを聞いてから感想を言って	資料女2 男と女とは差がある。な

下さい。わかりやすいようにプリントを用意しました。それも見て言って下さい。

資料テープ、プリント共に前半
きく。

発問 何でも言っていいいんだけ
ど何でもというと言いいく
いから笑ったところから発
言してみよう。理由も、い
ってみよう。

前半 笑ったところ(予想)

口調

むきになっている
言っていることがおかし
男とまぢがえられる
多いことば

文句の出そうなところ

男のまね、男にまぢがえら
れる。

男にスカートをはかせる。

男もおしとやかにする。

まやさんは：古川なんか：

ホモの話

発問 一人一人のくせをみよう。

発問 前半の内容はなんだろう。

発問 でも何ページもある。

後半について

発問 あれっと思うことを言っ
て下さい。

発問 後半の話の内容は何だろ
う。

んで差があるん
だろうのテープ
とプリント

本人からも今きくと
こう思う。反論
なども入れる。

やあねえ：でさあ
ね テンポの早さ
相づち 声

男女共に自分のこと
については、特に声
色に注意する。

どういいう笑いをす
る。

いい方、役割、性格
など出てくるだろう。
女がそんだ
〇〇はおしゃべりな
だけ

調子がちがう ゆっ
くり
まるで矛盾
男もそん

発問 前半と後半をあわせると この話はいったい何なのだ ろう。 何が変わったのか。それはど うしてわかるか。	何もない どちらも いっしょ 気分がち がう むきよおだや か 意識が変ってし まった。
--	--

A (本時使用の録音テープ)

〈仙〉あのお、男とさあ女とさあ、男の方がさあ、なん
かえらく感じるでしょ。なんで女がえらくないんだ
ろう、やあねえ。

〈瀬〉江戸時代ってねえ。

〈壺〉そうそう。

〈瀬〉頭にくるね。

〈仙〉それにさあ、女はねえ男のまねしてなんでいけない
のかね。

〈壺〉ねえ。

〈瀬〉ね。

〈仙〉それにさあ、あのほら、男はさあズボンと長ズボン
しかはけないじゃん、女はさあスカートとかそれは
不公平だよな。

〈壺〉そうよ。

〈仙〉男もスカートはいてさあ、べつにおかしくないじゃ
なねえ。

〈瀬〉ねえ、別に、それがふつうだもんね。

〈大〉だからさあ。

〈瀬〉だから。

〈大〉でもやっぱり男らしくない。

〈菅〉会社へ行ったら、男の方が給料多い。

〈瀬〉ねえ。

〈大〉ね。

〈菅〉総理大臣とかね、女だっていないしね。

〈仙〉女がなんで悪口言っちゃあ、あつ、ことは悪くちゃ
いけないのよねえ。

〈壺〉ねえ。

〈瀬〉平等、平等。

〈菅〉そうだよ。人間みな平等うーん。

〈大〉人間、みな平等だもんねえ。

〈仙〉でもー、でもさあ、なんかね、やっぱり女がさあ、
口わるいとさあ、やっぱり女は女らしくしたい。

〈壺〉でも証明できる人がいないんだもんね。

〈菅〉そうそう、そういう人はいない。

〈壺〉いいじゃないの。どうして女はおしとやかにしなく
ちゃいけないの。

〈菅〉ね、男だっておしとやかにしたら、でも、気持悪い
けど。

〈大〉今の男ってさあ、よわよわしいんだもん。

〈菅〉ひんじやくなの、女の方が強いよねえ。

〈大〉つまんないの、とくに古川なんか。

〈壺〉ねえ。

〈仙〉真柳だつてさ。

〈瀬〉真柳スカート似合うね。

〈大〉真柳スカート似合いそうよ。

〈仙〉あのむねのところにさあ、なんか卵かなんか、ポー
ルなんか入れて。

〈大〉かつらかぶればいいじゃない、かつら。

〈菅〉すごく似合うと思うんだあ、ねえー。

〈仙〉なんでえ、わたしなんかだつてさ、メガネかけてさ
ズボンはいてさ、私なんか、いつも男にまぢがえら
れてんのよ。スカートはいてもさあ。

〈大〉しいちゃん、きのうなにさ、ぼうや。

〈瀬〉ぼうや。

〈仙〉顔がさ、そうだからってさ中味がねえさういうわけ
じゃないじゃんね。スカートはいても言われちゃ
った。

〈壺〉ちょっと頭きちゃうじゃん、あれなに、ぼうや袋に
入れときますよ。何あれ。

〈仙〉わたしなんか、まわりから男みたいになんかえられ
たり。

〈大〉：女としておしえてくれないわ。

〈菅〉うちだってそうよ、お兄ちゃんの方が女らしいんだ
もん。

〈仙〉あら。

〈菅〉ほら、このごろあんがい男も。

〈仙〉やらしいい。

〈瀬〉ねちねち。

〈瀬〉ホモホモ。

〈大〉ホモ。

〈大〉真柳るみ子なんかホモじゃん。

〈壺〉なんか信じられないなその話。

〈壺〉生めるものなら生んでみろってんだ。

〈瀬〉でも、菅もこの前、言ってたじゃん、なんていうか
おとこの人が男児出産って。

〈菅〉反対なのね、男と。

〈瀬〉まじめに、まじめに。

〈瀬〉女の方が頭いいと思う。

〈大〉速藤さん、女の方が、頭いいと思う？ それとも男
の方が頭いいと思う？

〈速〉女が頭がいい。

〈瀬〉やっぱりね。

〈瀬〉うん。

〈瀬〉実証できないんだもんね。

〈菅〉こまるなあ。

〈大〉なんて、総理大臣、女がいないの。

〈菅〉いいじゃない別に。

〈大〉そうだよ。

〈仙〉なんでも立候補しようかしら、将来なんて。

〈菅〉無理よ。

〈菅〉なんか、みんなえらい人ってほしい男なのね。女
がなんで。

〈瀬〉やりすぎじゃんねそれじゃあ。
〈瀬〉やんなるよ。

〈壺〉男なんかすぐ暴力ふるうんだもん、あのほか。

〈瀬〉何かっていえばすぐけんかでおさめようとするの。

〈菅〉そう。

〈仙〉でもさ、でもさ、けんかするじゃん、私と男の子が
ね、すぐ男は先生に言いつけるじゃん。

〈菅〉ひきょうだよね、女はそういうことしないわ。

〈仙〉ひきょうよ。自分で解決しようとしなのね。あれ
あほだよ。

〈菅〉今の方が女

〈仙〉でも女でもだつてさよく。女でもね、こそこそそ
こそないしょ話してさ。

〈菅〉そういうのやあねえ。

〈仙〉あれやあね。

〈菅〉あんな人間じゃないわ。

〈仙〉それでもって無視しようなんてさあ。

〈菅〉無視なんてそんなね、みんな人間ののにね。

〈仙〉するもんじゃないよね。

〈菅〉そんなのやだわ。

〈菅〉でも、男だつて損してることあるよね。

〈菅〉そう。

〈菅〉スカートはけないじゃん。

〈大〉でもさ、ほら、男だつて、きらいな女の子のタイプ
があるじゃん、いちいち、もんく言う人とかさあ。

〈壺〉意外に女ってベタベタね。

〈仙〉女は、ほらべっしやり、べしゃべしゃやるもん
ね、おしゃべりだから。

〈菅〉ああいうのやあね、やっぱり。

〈大〉やっぱり私たちだつて、きらいな男のタイプがある
じゃん。

〈菅〉それでね、イチイチヤされたらやだね。

〈仙〉特によしあきみたくないのさ、ほら、女の人は男のこ
とをちゃんと考えてさ、男の人はやっぱ女のことを
ね人のことを考えてくれないさあね。

〈菅〉自分のね立場だけね考えてね、人の立場を考えない
んだもん。

〈壺〉私なんか、すぐさ、何かこれどうやるのって男に
聞くとき、何こんなのもわかんないのってすぐ言うの。

〈菅〉ばかじゃん、とかね。

〈大〉二瓶なんか言うの。

〈菅〉女はまるでばかにしてるじゃん。

〈瀬〉ばかにするの。

〈菅〉波多野も——も。

〈菅〉ほんと、あんなの天才なの？

〈大〉やだよ、なんで男と女のさかいありすぎるんだなあ。

〈菅〉でもさあ男の方が頭いいのかなあ、なんか大学入る
のも男の方がね。

〈大〉でも、わかんないよ、女だつて勉強してればさ。

〈仙〉でも女がいなければ男だつて生きなれないよね。だ
から大事にしなくちゃいけないんだね。もうちょつ
と女を大事にしてほしいわね。

〈大〉男と女が結婚して生まれるの？ 赤ちゃんが。

〈菅〉そうだよ。

〈仙〉ホモじゃ、いけないの。

〈菅〉そうよ、生まれるはずないよ。

〈壺〉結局はいっしょになるんじゃないの。

〈菅〉そうよ。

〈大〉だから男がいなくちゃ。

〈菅〉女もだめだし。

〈大・菅〉女がいなくちゃ、男もだめだし。

〈仙〉だから、地球には男と女しかいないんだからね。

〈仙〉宇宙人はどうなの。

〈大〉このクラスちょっとはなれすぎだよ、男と女がね、
やだつまんない。

(空欄のへ)はテープ再生中、どうしても子ども
の名前がわからなかったので空欄にした)

2. 授業記録とその所見

T きょうは、木曜日のテープを聞いてから、感想をいってもらいます。自分が出て来た人は、出て来た人の感想をいって、出て来ない人は出て来ない人で感想をいって下さい。プリントを用意しましたから、これといっしょにテープを聞いて下さい。

テープといっしょにプリントを見て下さい。べつべつに見ると音がなくて目だけで考えるから、(プリントを見はじめた児童に注意) いけません。プリントAのテープを聞かせろ。

(あちこちで笑い声) 資料プリントA。

T前半終わり。なんでもどうぞ。感想なんですから。

(ハイ、何人か手をあげるが、プリントを見て、カセットを聞いているときの反応にくらべて、少ない)

それっきり? みんな笑ってたじゃない。笑ってたというの、みんな、なにかを感じていたんでしょ。

やっぱり二人しかいない?(各列二人位、やはり、とまどいがあるともえる)

TU 感想をいいたっていわれたけど、今、耳で聞いていたでしょう。目でプリントを見ていたでしょう。どんなことが話されたのかわかるでしょう。今、先生が、感想をいいたくないといったら、とたんに、ぱっと手が上がらなかったのね。それね、先生が感想をいいたくないのと、それをとりかえている人もいると思うの、全体的にまとめて何かいえない先生がいてるんだと思って、それでは、なかなかまとまらないよと思っている人もあったかもしれない。だから今、手を上げなさいといったのは、全体的感想でも、部分的感想でもいい。といったら、どう? 「あの子、いやなことをいいたな」「いまにみてろ」なんていうのも感想だね(「わかった」というような笑い) さ、手を上げなさい。

(まだ手を上げない人もいた)

TU 手を上げない人は、まったくくないの? それじゃてくのぼうとおなじだよ。そんなことないでしょう。「あ、おかしかった」というのも感想じゃない?

O 全体的に見ると女の子よりも男の子の方がいいようなところがいろいろかいてある。総理大臣でもみんな男の子がしめている。

O 同じんだけど総理大臣だって女のいないし平等…

O 女の子は男の子をうらやましがっているって感じ。

O いっちゃわるいんだけど、近ごろは、男の方がよわわしい感じだからね男だけいいなんてずるって感じがする。

T 男の子がむずむずしてきたようですね。

O そうじゃなくて、なんか女が主役で、男をにくたらしいって、そういう感じ。

T それは、全体的ですか。

O : : (はつきりしない)

T どうしてもいっておきたかったの?(笑い)

O さっき樋口さんがいったんだけど、男が弱々しいんじゃないか。

T それは、意見に反対しているのね。

O うらやましがっているというのではなくて自分達がなり

たいというような意見を持っている。

T 何に。

O 総理大臣に。

T その他にある人。

O ぼくもやっぱり、女の子達は、男の子ばかりが総理大臣とかになりたいたいということもあるけど、それは、江戸時代むかしからのしきたりだからしかたがないし、それに

べつの見かたからすれば、女の子たちは、なんか心の中では、なんかえらいことを言っているつもりなんだけど真柳くんとかを例題に出してから、おかしくなってしまっている。

O ぼくとか、やっくんのことを、人のことはとんどんい

けど、人にいやみ、自分が女だから男にはなれないからだからいや味を言ってる。なれないでしょ。だから、悪いことばっかり言ってるの。

O なれないからかもしれないけど、ほんとうにその通りなんだからしかたがないじゃありません。(かなりきつい調子で)

TU それは、だめだよ。感想で止めなくていい。

T 自分の意見じゃなくて、感想をいって下さい。

O ちゃんと話はずれるかもしれないけれどだいたい総理大臣に男しかならないっていうけれどそれは、女…: 婦人参政権があるのに積極的に立候補したりしてないからならないのであって、自分がやらなければならないのであって、男がわるいとかなんとかいえないのじゃないか。

O ちゃんと、これが実現されたら、この世界がこわれちゃうし、だいたい自分は、確実に結婚できない(笑い)。

それで、波多野くんが言ったように、婦人参政権があるのね、総理大臣になれないのは、女の人達も投票しているのだから、女の人達も男の方がすぐれているのを認めていることになる。(笑い) : : :

T 今、米塚君は、自分の意見を言っているんだけど、意見を言っているのじゃないよ。聞いて、プリントを見ていたとき笑っていたでしょう。そのときの感想をいってほしいの。そのときいろいろと、(「会話のテープ」を聞いて、その会話そのものがどう展開しているかを、外から眺めさせようという二重構造をつかみきれず、テープの会話の中に直接入りこんでいって、その展開をくつがえし、べつの結果へもっていきたいという意見をのべはじめたので、その点の誤りを正したかった) 思ったから笑ったのでしょ。だから、意見は、あってもだまっていってほしいの。笑った。なにか思ったからわらった。それを言っているの。さっき笑ったけど、まだなにも言っていない人は言って下さい。O O さん : : : 笑った?

どこで。

C ことが、悪いってことでおもしろい。急にね、真剣になったり、ふざけたりしているところがおかしい。T ことがわるいところが、おかしい？

今、おもしろいのがでてきたね。ことがおかしいというのがね。黒板に書いてもらっているけれど、こちらが全体のこと、こちらは部分ね。山本君は？

いいかたとか、急にころっと変わったり、内容が変わったり、ことがぶかいか、わるいところとか：：T ころっと内容が変わったところを言ってみて。

Tu まだ、それは、あとでいいんじゃないかな。

T じゃ、あとでやるから印つけておいて、ほかに。

C 女の子達は男の悪口は、ぼんぼん出てくるのに、女の悪口はでてこないのか。

(でてきてるの声) 出てきて男にくらべるとそうとう少いでしょ。

C どうして、古川君と真柳君が出てきたというのが、不思議。

Tu では、こちらを整理してみよう。整理する(黒板に書かれたものを整理することによって、今日、どんなことを勉強するのか。それも考えながら、やってみよう。全体的な感想でもいい。部分的な感想でもいいといったから、黒板に書く先生がまとめてくれたのね。

こちら、全体的なもの、こちら部分的なもの、としたんだけど、厳密に言えば、全体と部分ということが、あたっているかという問題があると思うの、もっと全体というよりもこちらは(全体的：を指して)、内容に関する感想といった方がいいかもしれないね。そして、こちら(部分的を指して)は、内容ではなくて、話し方が悪いとかいう批評に入っているともいえそうだね。だから、今日の勉強は、今日聞いたテープの内容に関する勉強をするのかなと思ってる人もいるし、こちらの話し方だとかを勉強するのかなと思ってる人もいるだろう

と思う。

ここで聞いてみたいのは、内容に関するところが、たくさんでてきたね。これを、一言でまとめてばっといえないだろうか。

だいたいこういう話をしていたんだというように、まとめにしていって下さい。

ここにあるのは、なんかみんな似てるんじゃないかと思うよ。短いことはまとめてごらん。六年生なんだから、(考えている間に)全体と部分で考えてきたのでも、全体といいながら、まだ部分になっているよ。だから、もっと全体になることをさがしてごらん。

C 女の子は、男の子より強くなりたいたいという話をしている。

Tu・T いいですよ、その調子で、ほかに、

C 女の子がねえ：：男の子より：：

Tu・T もっと短く。しほって。

C 女の子の方がえらくならない。

Tu 似ているねえ。同じだね。

C 男女の違い。

Tu 今言ったようなことを漢語、漢字を使っていったら、もっと短く言えるでしょう。男女の違いといたら。

C 差別、差、(小さくてよきこえない)

Tu 差別か？ 違いとはちょっとちがうね。

C 差別(つづやく、差はよく聞えないので、差別で話を進めていく)

Tu 男女の違いは、差別か？ 違いといえは、差別ではないでしょう。(男女差といっているが外の音でよききとれず、再び差別としてとり上げてしまった)

差別か？ やっぱり、男女差別論、である。しかし、差別論は賛成できないね。男女比較論、比較の方がまじいのじゃないかな。一応これしておこうね。こういうようにまとめれば、さすがだな。ということになる。こういうように漢字の熟語というのは使うといいのよ。では、強くなりたいたいか、偉くなりたいたいた人たちはどう

なるの。

これは話の中味ではないね。「比較」が中味なら、「強くなりたいたい」「えらくならない」は、中味について自分の感じたことをいっているね。なぜこんな「比較」というような話をしたのか。下心はなにか。というところまで進んでしまっているんだね。

このちがいはわかるかな。

では、そこまであとで話が進んでいくと思うから、次はこちらの話の仕方、または話のしつぶり：：話の形式について考えていくことにしましょう。

きょうは、やってもらいたいことがたくさんあるので勉強の形のお手伝いをしていいますよ。

(下心のところまでいったが、それは、形式を伴って考えた方がよくわかるので、一応ここでとめ、形式をまとめたのちに、下心を扱うことにする。そのための切り替えである)

T 形式について勉強します。(黒板を見て)形式については、あれだけだったのかな。この会話をしたのは、一人ではありませんね。その人達、ひとりひとりのくせをさがして、くせで形式を考えて下さい。もう、テープの声はとんでしまっているので、プリントを手がかりにして考えて下さい。全部名前入りで書いてありますから、話つぶり同じなのかな。

C 自分でずけずけいう言い方。人に同調する言い方。全体として、くり返しがあつて、聞いている人にうえつけるというか、くり返しによって意見が強く印象づけられる。(あとの児童が、続いてこないの、方法を効じる)

T 先生がプリントを書いているとき、あ、これは何度も出てくる言い方だな。と思うことがあつたよ。言葉ではなくて、いい方で。

もう一つヒントを与えます。先生は、このプリントを書くときみんなの顔を見て書いたのではありません。声をきいて、くせを見つけて書いたのです。みんなもみつけ

でござらん。

Tu もっとやりやすいように助けてあげましょう。今、先生は、形式のことをやっているのだと思う。でもあれだけでは、出かたが少ないので、もっと出させようと思って、聞いているのだと思う。赤、青、ふつうのえんぴつを使って、ずうっとみて、同じことが出てくるところに線をひっぱってござらん。そしたら、この人こういういい方ばかりしているというのが一べんに目立ってくるから。

T 同じことは、同じ色にしてね。

Tu ちょっとしたあらさがしだよ。この中に発言した人がいるんだね。恥ずかしくなっちゃうね。しょうがないね。がまんしてね。

さ、あらさがし。

(作業をはじめ)

Tu・T この子をしらべてみよう。自分のことをしらべてもいいよ。

Tu 点線とか楷線とか区別してひいてね。

ていねいに見つけていくと、その人の考え方がわかりますよ。これからは、うかつにしゃべりませんね。

(机間巡視して、ことばだけに集中しているのを見つけて注意する)

傍線を引いているのを見るとことばだけに集まっているけれど、さっき発言した(山本君の)急に内容が変わっている(発言したときあとでとり上げるのでとっておいて)とことわっておいたことについて)という感想があるね。せっかくな、こういういいことを言っている人がいるんだから、この感想に注意して見ると、急に内容が変わったということばは、話をしていて誰かが急に話題をかえたというところでしょ。そうすると、この人は、話題を変えたがる人だということがわかる。そういうことも作業しながら考えてござらん。キョロキョロする子もいるし、一つのことをじっと見つめている子だとかがわかってくると思うの。そうやって見つめてください。

C 仙北谷さんは「さあー」ばかりいっている。

C やっぱり仙北谷さんのことだけど——「男とか女とか」からこんど「衣服のこと」になって、また、「男とか女とか」になって、また「ズボンのやスカートの衣服の話」になって同じ話のくり返しになる。

C 大西さんの話だけど、だいたい、大西さんは、古川くんとか、って例を上げている。

C 仙北谷さんは、「さあ」のほか「ねえー」というのがある。

C 同じことなんだけど、仙北谷さんは、「ねえー」とか最後のぼすいい方をする。ことばの最後を止めない言い方をする。

C 大西さんは、例を出して、違う話を持っていく感じがする。なんか卵とか、男性出産とか、へんな例とか、おもしろい例を上げている。

C 瀬戸さんは、大西さんや仙北谷さんの出した意見に同調して、強調するし、つなげる役をしている。

C 仙北谷さんが、話を変える役目をしている、例をあげて菅沼さんがあいつちをうつ。

C 壺内さんは、ことばが悪い「あのばーか」とか。C 今、真柳君がいったんだけど、ことばが悪いのは、全員に、目につく。(笑い)

仙北谷さん、大西さんが、多くしゃべっている。

T 仙北谷さんが、はじめの方は、話をすすめる役、あとは同調してる。

C 全員にいえることなんだけど、「ネチ、ネチ」とか「ホモ、ホモ」とか二度繰り返すことが多い。そして、何かいって、あとは、そうそうと同調する。

それから、菅沼さんは、全員にいえることなんだけど、話を途中でとぎれて、すぐ他の話にいっちゃう。

C 瀬戸さんは、他の人からいわれて、ヒントを得て話す。それから、菅沼さんは、同調するだけでなく、そんな話題からはずれることはないのだけれど、話題を進展さ

せていると思う。

C 続いて、瀬戸さんは、同じことばを二回言ったりする。同じことを言うだけでなく、もっと長く話すとかかる。T あ、あんまり言っていないから、瀬戸さんの感じが出ていないってこと? なるほど。

C 他の人も言っているんだけど、仙北谷さんが、一番なんか、はつきり言ってるって感じ、話を聞いているうちに前にいったことを、女はやっぱり女らしくした方がいいとか弁解している。弁解が多いと思う。

T だいぶ出て来たね。こんなに形が出てきた。Tu いそぐから手伝います。いろいろなこと知りたいから、さっき、内容のとき一つにまとめたでしょう。

こっちも、こんなにたくさんあるのを頭の中にしまっておくのは、大変でしょう。たくさん出て来たけど、何か特徴はないでしょうか。

Tu いろいろ同じことばがあるね、それを選んでみると(線を引く)同調、強調、くり返し、相づち、ことばが悪い。形式は、これでまとめられるね。内容は、一応、男女比較論としておくよ。さっき、そうまとめたのだから。

ところで、ここで問題をあげます。この形式とこの内容は、合っているのだろうか。

比較するのに、強調したり、相づちを打ったり、して、本当に比較ができるのだろうか。

たとえば、理科で実験するとき、こちらが重いノとか強調しますか。しませんね。内容と形式は、いつも一つだね。そうすると、これは、どちらかが違うのじゃないか。このままでは内容と形式が一致しなくなってしまう。ここまでわかるね。

(子供達の頭の中の動きと言葉になってくる間をとり、さらに整理を試みる)

さっきの発言で、もう解釈してしまっている人もいたね。(下心「女は男より強くなりたい」「えらくなりたい」とつなげる)もう「差別だ、差別だ」といった人もいた

ね。そこで、こういういい方で、いって下さい。

形式が正しいとするなら、内容は、○に替えなければいけない。

内容が正しいなら、形式をかえなくては、いけない。というようにいって下さい。短く。

C内容をかえずに形式をかえるとすると、(外の物音と声がうるさくて聞きとれないので推察する)女が主権をとるようないい方にかえる。(というような意味。本人は自信なさそうでよけい聞きとりにくい)内容を変えたら、女主権論だ。

C形式を大事にすると男子の批判。

C形式の方をとって、くり返しか、強調とかで下心が感じられて、強くなりたくいとか出て来たんだから、言い表わしにくいんだけど、差別撤廃とか、(びったりしないという思いがあって、補足をしながら用いている)撤廃というより、逆に男の方に差別をしているぐらいだけ。Tみんな、形式をとって内容を変ええるという人が多いね。(やはり、どの子も形式を変ええるということではなく。形式は、はっきりと出してしまっていて変えようのない事実であることをつかまえている。しかし、それにしている内容が、もう一つ不満なまどめになっていることを感じているようである。ここをたしかめなくてはならなくなってきた)

本当にこれだけでいいのだろうか。

C男女平等論。

(これでは、違いを意識していることはよくわかるが、かえって的是がはずれたこととなっている。明確にする必要が出てきた)

Tuみんないろいろ言ったけど、どれもびったりしていないんだね。それは、みんなわかっているんだね。もっとびたりしたのをやさしいので考えてよ。おじさんが漢語でといったら、むずかしすぎて、びたりしなくなっただから、みんなの知っていることばで考えてみよう。

それから、話し手さんに聞いてみよう。論をやったのかな。(否定のようす)

やっぱり論をやったのではないよね。論にしては、(形式を見て)これがあわないよね。

Tuさっきあった「男子批判」これが近いんじゃないの、まだびたりしないね。

彼(米塚君をさして)の言ったように、話をするときは下心がなくちゃこういう話はしないですよ。それをびたりとあててみて下さい。

論議をするときは下心なんてあっちゃいけないんだよ。でも今日のは、ただのお話なんだから、やっぱり下心があるのよ。

もう見つけている人もあるね。それをみつめて下さい。

C男はやだー

T(話し手さん達の顔は)男はやだーじゃないみたいよ。

Cなんだか男に対して劣等感みたいのを持っているじゃないか。(笑い)

Tu出て来たよ。下心をそういうふうに見た。

C男が総理大臣になっていて、女がなっていないから、えばるな(ぼそぼそ自信なさそう)

Cたぶん女の子は、男女の世界を逆にしたときのことを考えている。

Tu男性の天下を転覆させよう。

Cよくわかんないんだけど、劣等感じゃないんだけど、とにかく反感を持っている。

T女子は、そうじゃないと言っているわよ。でも、なんか近いところをぐるぐるまわっているような感じだね。

C男子がこうあってほしい理想。

Tu男子がこうあってほしい: : : といったら、後ろの方で、「そうそう」なんて頷いていたけれど、そうだったら、

(形式を指して)なんで、ああずけずけと言っているんだらう。おかしいじゃない。こちら合わせて考えて下さい。もう少しきれいなことばでいってもいいんじゃない

いかしら、

(なるほどという笑い)

C男子がこうなればと決めている。

C男ってこういうものだ、女っていうものはこういうものだ。

Tそれにしても、ことばがきれいすぎる。

C女が自分勝手に決めつけた男の姿。

Tuちょっと教えてあげよう。そういうのを大人はこういうのです。「独断と偏見」というのだ。(なるほどという笑い)

笑い)

これで終わるのですが、少し聞いて下さい。「独断と偏見」というのが答えではありません。そうではなくて「独断と偏見」に満ち考え方をしたもとはなにかという心の中をあててほしいのです。そういう意味では、まだ答えは出ていません。答えは、出ていませんが、彼(米塚君)が、言ったようにあの六人組の心の中には、劣等感があるのではないか、という意見は、参考意見として耳にためておきたいことだと思っています。

まちがわれると困るのでつけ加えておきますが、いつも正論をたたかわずときは、こういう「独断と偏見」とか劣等感はいけないのです。なるべく捨ててくはないけない。でも、いつもの会話のときは、こういう下心はいけないから捨てようなんて考えなくていいの。気分です話しているの。だから、そういうときは、「やっちゃえ、やっちゃえ」とかわるいことばもでてくるの。こういうのを「感情論」というのです。

T 市山 (横浜・大正小・教諭)

Tu 上原 教授